

日本作文の会編

日本の 子どもの詩

福井



日本作文の会編

日本の 子どもの詩

茨城

岩崎書店

日本の子どもの詩 8 茨城

一九八〇年九月二五日 初版発行

編者 日本文文の会

発行者 森山甲雄

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話〇三〇八二二・九一二(代)

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいは、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などもよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「茨城編」であります。どうぞ、ひとつひとつしずかにお読みください。

もくじ



1918
~
1945

8

雲

いつかの船

笛

(無題)

9

はたるの光

葬式のかえり

朝早く

10

すずめ

春

雨

雨

11

花のかげ

母ちゃん

夕食

雪ふれ

12

ぶゆ

さく

ツクバ山

13

あめや

チンチロリン

ホシ

ヒト

水のいたこ

14

朝はん

きゅうりのふたとり

15

家の屋根

しろかき

16

うぐいす

馬

17

切わらきり

夕方

18

青田

ねぎぼうさま

大宝祭

かなかな

19

おっかあ

母の手

20

田うない

ゆりの花

午後

手工

21

田の草とり

ほおづきの花

野ぶどう

22

石臼ひき

月夜

たきざとり

23

麦打ち

かげ

24

朝

24

母

わらはこび



1945

～

1959

26

かくれんぼ

やぎのうんこ

ゆうぎ

27

いぬ

かえる

かえる

28

牛

もっくん

29

かえり道

なえとり

30

赤ちゃん

のら道で

進駐軍

31

くものす

おとうふやさん

母とふたりで

32

母の日

33

牛

34

父

35

麦こきする父

35

砥石

きんぎょ

とんぼとり

36

カーネーション

雨

水たまり

37

かがみ

やなぎの木

38

はなび

やどかり

39

あり

もっこ

くわつみ

40

とうもろこし畑

畑道

つり

41

父に捧げる

シソの実

42

たいふうのおと

じどうしゃ

むかい

43 くも

草のほのぶらんこ

土手

44 月夜のスキップ

いもおこし

小麦まき

45 夕方

雨

46 夜のお使い

米とき

47 母がねていた日の午後

まりこのおでき

48 汽車

先生のいれば

49 おとうさん

くい打ち

あくび

50 かご

51 停電

リンペン

52 えんぴつ

53 おとうさんのふとん

かあちゃん

切りわら切り

54 牛

なぜ

55 たねとうむぎ

まやごい出し

れんけつき

56 新聞作り

たわらしばり

57 久保山さん

おとうさん

58 みそのにおい

おれのおっかあ

米とぐ音

59 くどで

牛



1960
～
1969

62 つねくりっこ

ゆめ

こううんきそうじ

ほうしゃのうの雨

せみにがし

学校工事

63 夕飯

64

65	ジョンソン大統領よ
66	佐藤総理大臣どの——私のねがい
67	ごとうのニュース
	四のかわ
	つむじ
68	あらし
	雨の日
69	あせには負けないぞ
70	麦まき
	稲こき
71	田舎娘
	教育ママ
72	犬のおっぱい
73	あぶく
	いかやき
	プロレス
74	とびばこ
	たんじょう日
75	くずれ山
	手のある魚
76	服のつぎ
	牛
77	鍛冶屋
	新聞配達

80	せんせい
	せんせい
81	わらわれてもいいの
	おかあさん
	日記
82	もうすこしだ和彦君
	テレビ
83	このごろとてもいい
	思い出
84	目があけられるようになった
	なめくじ
	すいかだし
85	にじ
86	先生
	イチヨウの木
87	せみ
88	体育館の朝
	ふたりの世界
89	どうぶつえん
	りんす
90	ほとけさま
	ぶらんこ

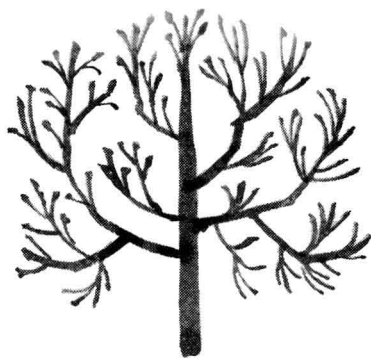


1970
～
1979

- 91 農業がきれいなのに
公園
- 92 母
ゆき
- 93 きんしょう
しゅうじのどうぐ
- 94 むしろおり
さむい朝
- 95 もうがったあがとうちゃん
父のぬけがら
- 96 なきながらやった宿題
インクのにおい
- 97 先生かたくなりすぎだよ
つり
- 98 おじいさん

- 99 米すり
マラソン
- 100 おねえちゃんの受験
帰り道
- 101 きてほしくない春
ゆめ
- 102 私にください
春近き日
- 103 星光る夜
ひとり
- 104 *
- 105 あとがき——茨城県の児童詩指導の歩み
この本の編集をした人たち
- 107
- 110





1918～1945

(大正7年)

(昭和20年)

ここからあとのページには、

* 日本で子どもたちが、詩をかく
ようになりはじめたころ。

* 児童自由詩といわれたものから
児童詩、児童生活詩とよばれる
ようになったころ。

* 村や町の子どもが、りっぱな詩
を、ぐんぐんかいていたのに、
おおきな戦争のために、それが
おとろえてしまったころ。

こんなころの茨城県の子の詩が
ならんでいる。

雲

つくば山の上を

雲がとおる

ちよつといつては

かんがえている

わた雲

吉原 勝 小4

結城郡五箇校(指導)羽田松雄

いつかの船

いつかあの船に

のって行つたつけ、

知らない町が

たくさんあった。

今日もその船が

静かに下^{くだ}つて行く。

屋根の光っているのを

山中孝一郎 小4

8

見ているうちに

木の間に見えなくなつた。

真壁郡水海道校(指導)落台隆一

笛

青いしのきつた

細いしのきつた

ねえさんにきかそう

月夜の晩に笛吹こう

青いしのきつた

細いしのきつた

高原 正 小4

真壁郡水海道校(指導)落台隆一

しのしの竹。

(無題)

中山たけ 小4

夜おそく

牛乳のめば

あまい匂い。

またかえるが鳴くな

と思つていて

みんなのんでしまった。

真壁郡大宝校(指導)中山省三郎

ほたるの光

武藤雄治 小4

ふんわりふんわりとんで行った。

光を出し出しとんで行った。

ほたるは稲へとおまつた。

稲へとまつても

光をかるく出している。

真壁郡水海道校(指導)落合隆一

葬式のかえり

中山たけ 小3

葬式のかえり、

俤くまにのつてくると、

山があった。

家がぼつぼつあった。

あかりが動いて、

田にうつっている。

あかんぼうの

こえがした。

真壁郡大宝校(指導)中山省三郎

俤Ⅱ人力車のこと。

朝早く

倉持四郎 小5

お父さんの百ヶ日、

早くおきて線香上げた。

道へ出て空見れば

白い月がしつとりしている。

多賀郡関本校(指導)吉田三郎



すずめ

矢口みよ 小5

すずめが竹にとまった
あんまりすずめがきたので
たけがまがった
すずめはまがったので
にげてった。

結城郡結城校小田林分教場

春

小菅与吉 小6

春が来たなあ みんな等
あっちでひばり
さえずってらあ
なあ春が来たんだなあ。

結城郡中結城校(指導)佐藤博

10

雨

蛭沢新一郎 小6

それ麦こむぎつける
それはこべ
雨がそこまで
ふってきたぞ

真壁郡若柳校(指導)栗野柳太郎

雨

中山みつ 小6

雨がとおって
日がてった。
畑のわきを
牛がとおった。
その牛 赤牛
だまってとおった。

真壁郡大宝校(指導)中山省三郎

花のかげ

小さいコスモスの

花のかげへも、

光はきている、

ちらちら光って

うすく消える。

月夜の光、

すずしい

風の夜。

中山みつ

真壁郡大宝村(一四歳)

母ちゃん

母ちゃん

私は

一人だよ

死んだ

新井貞子 小6

II

富子を

思い出す

真壁郡若柳校(指導)栗野柳太郎

夕食

うめぼしの

においまで

すうすうする月夜、

つめたい風に

ふかれながら

夕飯をひとりであべていた。

中山みつ

真壁郡大宝村(一四歳)

雪ふれ

早く雪ふれ、早く雪ふれ、

屋根の雪を高い驚足さげあしに乗って、

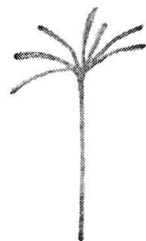
ぱくぱく食ってやる。

(校名不詳)

荒井豊栄 小6

驚足＝方言でサゲアシ・竹馬のこと。

ぶゆ



荻 昭 小 1

ぶゆが

あかくなつた そらで

あがつたり

しずんだり している、

はたけも あかい。

真壁郡黒子校(指導)大島武男

ぶゆがよ、ちいさな虫。さされるとかゆくなる。

きく

どてに

きいろい きくが

よしざわしげぞう 小 1

さいていた

ほりさ^(に) うづ^(こ)っている

なみで

ふる^(え)いてるようです。

真壁郡騰波ノ江校(指導)大島武雄

ツクバ山

ヒロセタツオ 小 1

ツクバ山

タカイ

クモノハジツコガ

山ノテツペンニ

ヒツカカツテイル。

真壁郡騰波ノ江校(指導)大島武雄

あめや

びゅとろあめやが

きたときにや

吉田ミキ 小 3

ぜに一錢ぢや
たりません。

真壁郡若柳校(指導)栗野柳太郎

チンチロリン

ヒロセカツジ 小1

カドデ

チンチロガナキダシタ

タケチャンガ

デンキモツテキテツケタラ

クネノ中ガクロツポクテツタ

真壁郡鵬波ノ江校(指導)大島武雄

ホシ

イイオカカツ 小1

ホシノカタチガ

アカイカザム(かざ車)グラミタイニ

キラキラマワツテイマス

デカイホシデス。

真壁郡鵬波ノ江校(指導)大島武雄

ヒト

イイオカカツ 小1

タン中ニイルヒト

トオクカラ ミルト

クロイボウノヨウニミエル。

真壁郡鵬波ノ江校(指導)大島武雄

水のいたこ

立原進一 小3

とね川の水

キラキラひかっている。

はつどうきせんが

米をいっぱい

つんでいった。

波が三角せんのように

ひろがった。

岸のまこものかげ

青くうつってゆれている。

はつどうきせんがとまると

うすあお色のけむり

輪になってポツポツと出る。

だんだん大きな輪になって

きえた。

キラキラ水が光っている。

朝はん

朝

ごはんをたべるとき

朝日が

とだなとおぜんを

てらしてる

おぜんにてって

ねえちゃんは

行方郡(校名不詳)

安
とみ
小3

14

まじらっぼくて

たべられぬ

とうちゃんの

せなかにも

てっている

とうちゃんが

せなかをまげると

私が

まじらっぼくて

たべられぬ

那珂郡中野校

まじらっぼくて!!まぶしくて。

きゅうりのふたとり

宇津新一 小4

きゅうりのふたとりしていた。

きゅうりの葉はもう黄色くなっていた。

雨でふたがかぶせてあったからだ。

がらすの表に水玉がころげている。